



のぞみ 希 望

学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/sugita>



嫌なこと・不便なことに どう向き合うか

校長 若色 昌孝

給食にアジの干物が出た日、各教室はちょっと騒然としていました。「これ食べられない、骨あるし。」「家では、骨はとってくれるよ。」「あ～あ、刺身がいいなあ。」

そうです。子どもたちは、アジの骨に難儀していたのです。夏休み前には、夏みかんが出ました。さぞ喜んでのことだろと教室を見て回ると、手を付けられていない夏みかんがたくさん。そうです。皮をむくのが手間なのです。「家だったら、中身だけ…なんだけどな。」という声も聞かれました。下膳後、給食室に行くと、手付かずの夏みかんの山。

今の子どもたちは、生まれたときからエアコンがあり、エスカレーターがあり、コンビニがあり…。お店に行かなくても好きなものを画面の上で買うことができ…という、多くの便利さの中で育ってきました。だから、ちょっとした不便も、大きな不便と感じてしまうのかもしれませんが。これは子どものせいではなく、便利さを追求する時代の流れの中でのごくごく自然な姿なのかもしれません。

そして、時代は、「好きなことをしましょう。」「得意なことを伸ばしましょう。」とさけんでいます。これは間違ったことではありません。また、社会が安定し、世の中がどんどん優しくなっている今、子どもたちは、やりたくないことはやらなくてもいい…という思いをもちやすいです。しかし、好きなこと・得意なことだけで自分の周りの全てのことが回っているわけではないことを、大人はみな知っています。

そんな時代にあって、時には嫌なこともやる（あえて言うなら、嫌なこともやれる!）場の一つが「学校」なのかもしれません。なかなか嫌なこと・不便なことに出くわさない日々の生活の中で、嫌なこと・不便なことに出会うことを『子どもがかわいそう…』ととらえるか、『子どもの育ちのチャンス!』ととらえるか…、ここが大きな分かれ目のような気がします。

杉田小学校は、これからも変わらず「学校が楽しい学びの場である」ことをめざしていきます。しかし、いつも子どもの気持ちを先回りして手を引き、転ばぬよう道を掃き清めることばかりしては、伸びようとする子どもの力を奪ってしまうことになります。

（このことは、私にとっての学校だより第1号<4月号>にも書きました。）

嫌なことや不便なことにもきちんと向き合い、その嫌なことや不便なことを乗り越えていかれるような、そんな子どもたちになってほしいな、**杉田っ子!!**

